

心臓財団 季報 No.164

QUARTERLY REPORT OF JAPAN HEART FOUNDATION

August 10, 2001

財団法人日本心臓財団

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区-A

Tel 03-3201-0810 Fax 03-3213-3920 e-mail:info@jhf.or.jp http://www.jhf.or.jp/

本号の主な内容

2面：高血圧と血管代謝 研究助成対象者決定 / 「健康ハートの日」川柳入賞作 佳作 3面：新役員・評議員の顔ぶれが決まる 4面：
当財団の賛助会 ご支援ありがとうございます / 全国縦断ハートフェア / ご寄付ならびに賛助会加入のお願い / 日本心臓財団へのご
寄付 / あとがき

「健康ハートの日」川柳入賞作品決まる テーマ：禁煙 応募数8663句より32句を選考

当財団では一般の方に心臓病に関する正しい知識を身につけていただくことも事業の一つとし、8月10日が^{ハート}810と読み取れることからこの日を「健康ハートの日」と定め、事業を展開してまいりました。

本年度も日本医師会、日本循環器学会の後援のもとにファイザー製薬株式会社の協力を得て6回目の川柳募集を行いました。今回は禁煙をテーマに募集しました。今年は全国よりこれまでで最高の8663句の応募があり、この中から最優秀作2句、優秀作5句、佳作25句が7月18日に行われた次の選考委員による選考会で選ばれました。

作品は右記のとおりです。

選考委員長 五島雄一郎 (東海大学名誉教授)
選考委員 大西 正夫
(読売新聞調査研究本部主任研究員)
(五十音順 敬称略) 杉本 恒明 (関東中央病院院長)
田辺 功 (朝日新聞科学部編集委員)
春見 建一 (国立療養所中野病院名誉所長)
尾藤 三柳 (日本川柳ペンクラブ理事長)
矢崎 義雄 (国立国際医療センター総長)

「健康ハートの日」川柳入賞作品 (敬称略)

最優秀作 (2句・賞金各5万円)

灰皿をみな捨てさせる児の寝顔
(福岡県 高木真秀)

「禁煙」の文字に心をのぞかれる
(福岡県 三吉 誠)

優秀作 (5句・賞金各3万円)

禁煙をしてから孫が膝にくる
(千葉県 滝川ひろし)

今さらを今からにしてたばこ止め
(青森県 竹ヶ原明德)

禁煙中誰かに知られたい気分
(北海道 伊藤浩幸)

団樂に肩身の狭い冬ホタル
(神奈川県 青木誠二)

誘惑に負けそうだから禁煙車
(愛知県 柴田幸保)

(佳作の25句は2面に掲載してあります)

高血圧と血管代謝

研究助成対象者決定

ファイザー製薬株式会社の協力をもとに高血圧症、高脂血症、糖尿病の各領域より心臓血管病の予防という観点に立った動脈硬化関連の研究を行う40歳未満の少壮研究者に対して助成いたしました。

本研究助成に32件の応募があり、6月7日に開催された第一次選考委員会(選考委員30名)でこの中から

臨床分野 5 題、生化学分野 5 題、生理学分野 5 題の計15題が選ばれました。第二次選考は、7月7日開催の研究発表会で選考された15名の応募者による発表をもとに審査され、臨床、生化学、生理学の三分野より1件ずつ3件(各100万円)、このほかに領域を問わず5件(各40万円)合わせて8件が選考されました。

第 9 回日本心臓財団・ファイザー「高血圧と血管代謝」助成対象研究者()内は助成額：単位万円

- (1)有馬久寛 九州大学医学部附属病院第二内科医員/32歳 [100]
「**老年者高血圧(JNC)と心血管病発症の関係**」
- (2)前村浩二 東京大学大学院医学系研究科循環器内科助手/40歳 [100]
「**心血管系機能日内変動の分子メカニズム**」
- (3)宮田昌明 鹿児島大学医学部第一内科医員/39歳 [100]
「**clusterin の傷害血管リモデリングにおける生理作用の検討**」
- (4)石森直樹 北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学大学院生/33歳 [40]
「**新しい動脈硬化治療法に対する基礎的研究：特に動脈硬化抵抗性遺伝子の解析**」
- (5)轟石泰子 三重大学医学部第一内科医員/34歳 [40]
「**プロテインキナーゼ Akt の血管新生作用 - 細胞内コレステロールを介したカベオリン - P 13K/Akt 相互作用機構の発見**」

- (6)澤田直樹 京都大学大学院医学研究科臨床病態医科学研修員/32歳 [40]
「**高血圧症と動脈硬化症に共通する新しい細胞内分子制御機構の解明 - cGMP / cGK 経路による Rho/ROCK経路の制御 -**」
- (7)柴田 玲 久留米大学循環器病研究所助手/29歳 [40]
「**Stat 3 機能制御による傷害血管リモデリング予防 - ドミナントネガティブ変異 Stat 3 による遺伝子治療 -**」
- (8)下澤達雄 東京大学医学部附属病院腎臓内分泌内科助手/38歳 [40]
「**血管病変における酸化ストレスとアドレノメデュリンの関連、ノックアウトマウスを用いた検討**」

「健康ハートの日」川柳入賞作 佳作 (25句・賞金各1万円)(1面より続き)

- 禁煙のガムで命をかみしめる (福島県 遠藤 剛)
- 禁煙を思い立たせた児の笑顔 (広島県 谷本 友)
- 禁煙をしてから健康ひかりだし (宮城県 長田ゆき子)
- 抱き上げた児が禁煙を決意させ (埼玉県 内田三起子)
- たばこやめ心臓の音リズムカル (東京都 増島淳隆)
- パパ禁煙ママは声援ばく拍手 (愛知県 伊藤 登)
- 「禁煙」の字は十分に上達し (愛知県 伊藤弘子)
- 禁煙と公約はすぐ破られる (神奈川県 野村克己)
- タバコ止めはじめて知った匂の味 (千葉県 高梨 満)
- 禁煙はいつも明日が初日なり (大阪府 島 史朗)
- 禁煙をタバコ屋さんにすすめられ (滋賀県 池田勝行)
- 禁煙と知り悪友が賭けている (徳島県 島田利幸)
- 禁煙中妻も頑張るダイエット (東京都 中里清司)

- 禁煙で妻の小言が減りました (長野県 山本敏順)
- 掃除するたびに灰皿かくされる (秋田県 斉藤慎悦)
- 禁煙と書いた紙より薄い意志 (静岡県 満川悦朗)
- 灰皿が日増しに減っていく職場 (岡山県 小橋辰矢)
- 禁煙の一札入れて孫を抱き (静岡県 竹内禮治)
- 禁煙が黄から青への交差点 (兵庫県 春井 薫)
- 禁煙でパパのお土産ちょっと増え (東京都 土岐松也)
- 止められぬタバコに妻の目が痛い(大阪府 高尾久美子)
- 梅雨明けを待ち望んでるホテル族(東京都 井上はるな)
- 健康な赤ちゃんをみて禁煙す (青森県 あゆ)
- 禁煙三日誰も気づいてないらしい(愛知県 杉野のりこ)
- 禁煙にちょっと疲れて一服し (兵庫県 神納憲一)

新役員・評議員の顔ぶれが決まる

5月開催の理事会・評議員会において決定

本年3月開催の評議員会にて理事、監事の選任と、理事会にて評議員、顧問の選任を行いました。5月24日の理事会で新理事の互選により会長、副会長、理事長、常任理事を、また評議員会で新評議員の互選によ

り評議員会長、同副会長をそれぞれ選出しました。新役員は次のとおりです。よろしくお願いたします。任期は平成13年6月1日より2年間です。

理 事

会 長	平岩 外四	東京電力株式会社相談役
副 会 長	春見 建一	国立療養所中野病院名誉所長
理 事 長	志立 託爾	三菱信託銀行株式会社最高顧問
常任理事	川島 康生	国立循環器病センター名誉総長
"	河野 俊二	東京海上火災保険株式会社会長
"	篠山 重威	労働福祉事業団浜松労災病院院長
"	椎名 武雄	日本アイ・ビー・エム株式会社最高顧問
"	杉本 恒明	公立学校共済組合関東中央病院院長
"	外山 淳治	愛知県立尾張病院院長
"	矢崎 義雄	国立国際医療センター総長
"	和田 龍幸	社団法人経済団体連合会事務総長
	アンソニー・ウィン	バイエル薬品株式会社社長
	大賀 典雄	ソニー株式会社取締役会議長
	小川 聡	慶應義塾大学医学部内科学教授
	小泉 明	社団法人日本医師会副会長
	櫻井 孝頼	第一生命保険相互会社会長
	高藤 鉄雄	三共株式会社社長
	細田 瑳一	日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院院長
	山口 武典	国立循環器病センター名誉総長

監 事

末松 謙一	株式会社三井住友銀行常任顧問
増田 祐孝	日本軽金属株式会社会長

評 議 員

会 長	佐波 正一	株式会社東芝相談役
副 会 長	五島雄一郎	東海大学名誉教授
(経済界)	伊藤 助成	日本生命保険相互会社会長
	伊部 幸頼	ゼリア新薬工業株式会社社長
	浦上 敏臣	住友生命保険相互会社会長
	荻野 和郎	日本光電工業株式会社社長
	川端 常樹	日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社社長
	塩野 元三	塩野義製薬株式会社社長
	鈴木 正	第一製薬株式会社会長
	竹中 登一	山之内製薬株式会社社長
	田中登志於	田辺製薬株式会社社長
	土井 貞臣	トーアエイヨー株式会社社長
	内藤 晴夫	エーザイ株式会社社長

顧 問

岩佐 凱実	元株式会社富士銀行頭取
尾前 照雄	国立循環器病センター名誉総長
河合 忠一	京都大学名誉教授
坪井 栄孝	社団法人日本医師会会長
山田 和生	名古屋大学名誉教授

(医学界)

永山 治	中外製薬株式会社社長
波多健治郎	明治生命保険相互会社会長
アランB.ブーツ	ファイザー製薬株式会社社長
福田孝太郎	フクダ電子株式会社社長
藤山 朗	藤沢薬品工業株式会社会長
森田 桂	武田薬品工業株式会社相談役
若原 泰之	朝日生命保険相互会相談役
有田 眞	湯布院厚生年金病院院長
上島 弘嗣	滋賀医科大学福祉保健医学教授
上田 一雄	九州大学医療技術短期大学部教授
河村慧四郎	大阪医科大学名誉教授
北 徹	京都大学大学院医学研究科加齢医学教授
北畠 顕	北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学教授
児玉 逸雄	名古屋大学環境医学研究所教授
小柳 仁	聖路加国際病院ハートセンター所長
澤井 廣量	社団法人日本循環器管理研究協議会常任理事・事務局長
白土 邦男	東北大学大学院医学系研究科循環器病態学教授
杉下 靖郎	簡易保険福祉事業団・東京簡易保険総合健診センター所長
田中 弘允	鹿児島大学学長
豊嶋 英明	名古屋大学大学院医学研究科公衆衛生学教授
仲村 英一	財団法人日本医療保険事務協会理事長
早川 弘一	社会福祉法人康和会久我山病院院長
平岡 昌和	東京医科歯科大学難治疾患研究所循環器病部門教授
堀 正二	大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科学教授
村山 正博	聖マリアンナ医科大学学長
門間 和夫	東京女子医科大学名誉教授
横山 光宏	神戸大学医学部第一内科学教授

当財団の賛助会

ご支援ありがとうございます

個人賛助会員として本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。(敬称略:2001年5月1日~8月3日)

相澤 義房	上 島 弘 嗣	小野寺 庚午	木村 玄次郎	下 村 克 朗	外 山 淳 治	平 岡 昌 和	松 岡 博 昭	森 本 龍 声
秋 山 房 雄	上 田 一 雄	梶 谷 文 彦	國 定 恒	杉 澤 和 美	豊 嶋 英 明	平 盛 勝 彦	松 尾 裕 英	八 木 繁
阿久津 哲造	遠 藤 勝 男	片 見 初 江	久 保 田 徹	杉 本 恒 明	直 江 史 郎	廣 澤 弘 七 郎	松 澤 佑 次	安 井 健 二
阿 部 圭 志	遠 藤 政 夫	勝 村 達 喜	栗 田 明	鈴 木 常 雄	永 井 良 三	日 和 田 邦 男	松 山 緑	矢 永 尚 士
有 田 眞	大 川 眞 一 郎	加 藤 逸 夫	暮 石 泰 子	須 磨 幸 蔵	永 野 允	柗 山 幸 志 郎	馬 淵 宏	柳 瀬 義 男
飯 島 俊 彦	大 国 眞 彦	加 藤 正 明	桑 島 巖	住 吉 昭 信	仲 村 英 一	福 崎 恒	丸 山 幸 夫	矢 吹 壮
飯 村 攻	大 野 良 之	金 丸 憲 司	古 賀 義 則	高 尾 篤 良	仁 村 泰 治	福 田 圭 介	三 浦 傳	山 内 一 信
生 沼 幸 子	大 村 外 志 隆	金 子 好 宏	小 須 賀 健 一	竹 越 襄	沼 野 藤 夫	福 田 孝 太 郎	水 谷 浩 也	山 口 巖
池 田 孝 之	大 柳 光 正	川 田 治 義	後 藤 京 子	竹 沢 英 郎	橋 場 邦 武	藤 田 正 俊	三 田 村 秀 雄	山 口 徹
石 原 正	岡 島 光 治	河 村 憲 四 郎	小 林 太 刀 夫	武 田 信 彬	橋 本 俊 雄	藤 原 久 義	三 ツ 浪 健 一	山 田 和 生
和 泉 徹	岡 田 了 三	神 原 啓 文	斎 藤 頼	多 田 道 彦	早 川 弘 一	細 田 瑳 一	三 迺 信 一	山 本 章
一 色 高 明	岡 本 登	上 松 瀬 勝 男	斎 藤 能 彦	谷 口 興 一	林 直 彦	細 野 清 士	宮 崎 治 浪	家 森 幸 男
伊 藤 七 郎	小 川 聡	菊 池 健 次 郎	佐 々 木 進 次 郎	塚 本 宏	原 岡 昭 一	堀 正 二	宮 下 英 夫	横 田 充 弘
伊 藤 裕 康	荻 原 俊 男	岸 田 浩	佐 波 正 一	鄭 忠 和	春 見 建 一	堀 江 稔	宮 原 嘉 之	横 山 光 宏
井 上 博	奥 村 謙	岸 本 幹 夫	志 立 託 爾	土 居 義 典	半 田 俊 之 介	本 莊 晴 朗	村 山 正 博	
匿 名	小 澤 利 男	北 島 顕	島 本 和 明	戸 嶋 裕 徳	日 比 野 進	真 島 三 郎	望 月 茂	
岩 喬	小 野 克 重	木 村 和 雄	嶋 本 喬	友 池 仁 暢	平 井 忠 和	松 浦 秀 夫	守 田 哲 朗	

全国縦断ハートフェア

市民講演会を中心とした全国縦断ハートフェアを平成12年5月から13年10月まで日本を縦断する各地で開催いたします。自らの健康状態を知り、健康を守ることの大切さを理解していただきたいと思っております。どうぞお気軽にご参加ください。



【今後の予定】

H.13.8.18	健康フォーラム	河北新報
H.13.9.26	広島	
	日本心臓病学会	松崎益徳
H.13.10	仙台	
	日本心不全学会	白土邦男

ご寄付ならびに賛助会加入のお願い

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられております。ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額3万円、2万円、1万円、法人の場合は5万円まで何口でも差し支えありません。

なお、当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、寄付金・賛助会費については税制上の優遇措置が講じられております。ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597
宛て先 財団法人日本心臓財団

ありがとうございました

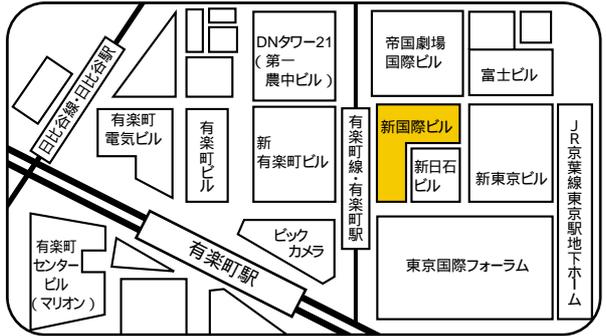
日本心臓財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2001年4月~7月)

中村 淳子様	神奈川県返子市	
柳田 嘉子様	東京都小金井市	100万円
匿 名	広島市	10万円

あとがき

日本では、8月10日を『健康ハートの日』としています。95カ国の循環器学会、心臓財団が加盟する世界心臓連合は、今年9月30日を『世界ハートの日』と決めました。あらたに心臓の日が加わりました。ここから「生涯働き続けてくれる健康な心臓を持つこと 心臓を大切に。家族や友人と話し合ひましょう」と世界に向けてメッセージが発信されました。自分の健康状態を知り、健康に努めましょう。(M)



お近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。